



遼河後風土記

五





三河後風土記正說大全卷之九

目錄

一 神君大村寺御危難

一 神君鐵田信長合體

一 一の宮後詣

一 三州一向宗之賊蜂起





三河後風去記正説大金卷之九

神君大樹寺御免雜

期ては時大樹寺小強等面以右旅人酒井雅樂外大久保七郎  
右多中多吉長中多八郎大匠賀五郎九郎石川与七郎若沼  
茂十郎林茂助平五七郎河部右九郎相井左近内茂四九郎  
多并長定海海の松平之辰助形の前松平善操の内茂源左衛門  
柳原小平右松浦次郎右衛門介組舟雜人凡百六十餘人、大樹寺小  
強り跡の面々の私免小陽子、公の大樹寺へはありて登立上人配悟未  
由池を以中上成候し、面ハ少く休息せんと覆と脱知子追降俄  
小路に候何もそと足名款返すしてありて、酒井雅樂外と記  
山門小く中記りて足名表のり、以梁田出候、政徳候、内茂外三子





揮奇る裏門より、河原右宮元隆社か後宗世正教二子余して先  
小信長の旗をとりて馳せる多紀死より河原に 公大おぼろむせぬ運  
今此宮へ沙羅將防矢射し心静小後切へしと宣ふ小し巻上人三平坊  
の僧徒小命し多小梅ちきり本少て裏門を防じ佐佐の直家人表門  
とちり和尚ハ佛標小以てを蔽せ別 祢君を是小信しきり白  
き帷子小肩より裾と春筋毎の美中小各号一遍書下り左右  
小親者地力至天下和順日月清明ホノ文と申由前小屋舎今日既小  
性生をを智流の教小入め實冥途少て極卒地を治しゆるしきし  
亦不極出性生之又由命を志時に別由守人と申 公連也のくりに引  
及守と安人を作ふる和尚別小守血脈を板せり和尚又孫を存せ  
後小松山の松林。此代男小教十中此旗をとりて中ノ和尚自筆と

染て厭難穢去飲水浄去の八字を血布小せて旗となして公身  
ちりる是公孫子の祠小是と死地小旗々而後小するといふ文の心  
なりとしか此旗小に守れたの方天神山の邊へ叱せよと下知を百姓  
皆く下知と交て天神小小してを旗とて叱しりり敵の大軍ハ  
祢君ハ大樹にまじりりりてとてと二守にまじり揮九かこめて  
餘波と心と揚る寺内も兼て旗となれり同く閑と合をとり酒井  
雅平介政親等も表門を守むまの僧徒も表門をそ守り 公は時  
を度より下りさせぬひ十死一生の由戦者て是と云ふ旗小せんと思  
自由持旗し引提させ旗ひ裏門へ叱ぬ小味方此勇士門と稱て  
お甲れ敵の大軍ハ一攻と競ひと云ふ是を由度へし沙木連も助くる言  
小此を門に掛けまゝ出て思ふ夜最後の戦ひはと云ふと信者



政親今少、早に皆由内へと、めのまは時討、奇も近つ、門を押た  
と、さんと安と押さ、公は、と、由、内、の、木、を、押、し、下、り、た、り、あ、い  
ま、先、小、進、ま、せ、ぬ、古、園、の、木、を、押、し、下、り、た、り、あ、い  
と、敵、も、切、り、せ、ぬ、今、大、樹、寺、の、空、曲、に、接、せ、し、ま、す、政親、大、名、揚、め、い、ま、し、  
お、大、物、の、由、内、と、さ、り、ま、す、公、を、抱、て、由、馬、小、石、を、ま、り、た、り、  
由、内、と、十八、人、勇、こ、を、難、兵、の、十、死、の、心、を、変、え、る、と、い、う、酒、井、政、親  
ま、今、今、今、門、を、開、け、と、い、ふ、詞、の、下、り、八、文字、に、押、開、け、い、つ、設、け、る  
織、田、家、其、大、水、井、澄、り、ぬ、く、一、交、小、咄、と、込、今、一、交、大、久、保、七、た、忠、世  
中、多、吉、在、た、大、久、保、大、名、康、三、柳、原、小、平、を、康、政、石、川、と、吉、布  
好、い、と、神、と、い、う、花、之、の、勇、士、先、を、拵、へ、突、て、出、交、小、石、が、お、小  
石、七、頭、八、頭、と、い、ま、と、い、ま、後、と、戦、へ、新、兵、同、く、お、ま、り、今、限、り、と

戦、今、多、吉、小、石、拵、け、し、ふ、へ、も、何、い、さ、り、り、れ、い、大、に、拵、せ、た、大、久、保、三、吉、  
拵、て、せ、り、く、一、交、と、切、ぬ、ゆ、神、君、と、お、名、小、石、川、し、を、お、ま、り、  
取、不、操、破、り、前、祖、道、坊、と、い、ま、流、石、原、橋、の、拵、し、て、種、お、拵、内、を、拵、せ、し、  
た、敵、も、僧、徒、或、い、討、ま、す、い、跡、を、ぬ、れ、あ、門、後、不、破、れ、り、ま、り、度、應、こ、  
今、討、公、脱、小、石、生、真、あ、ん、と、い、大、に、拵、今、拵、待、せ、ぬ、と、制、し、ま、り、  
大、吉、入、り、方、が、十七、人、の、面、い、い、生、死、を、知、り、た、戦、ひ、ぬ、小、堂、上、を、見、る、  
公、脱、小、石、危、地、由、馬、子、成、甲、へ、面、い、真、途、の、由、先、然、と、い、ふ、討、死、と、見、由、不、  
依、小、園、の、奇、も、辰、動、と、い、矢、叫、ひ、の、音、山、と、拵、ま、い、何、事、と、や、と、敵、陣、と、見  
後、を、拵、り、し、る、織、田、家、軍、勢、あ、り、不、拵、て、脱、小、石、見、ぬ、と、い、は、い、  
先、拵、て、由、内、拵、り、い、返、し、し、る、石、川、あ、い、酒、井、為、監、進、高、酒、井  
た、之、尉、右、次、石、川、新、七、右、左、依、田、新、九、右、正、依、田、新、三、右、正、依、田、新、四、右、正



わが布衣の征討中、初として大樹の矢叫の声を聞いて、童子時人  
我しくと川返すを介する指伊賀も元任増言せし元親因久世三四郎  
同平四郎浪切源七郎元助右美成、後為天龍寺、常内、友之丸、等  
ありしと一騎のけしき、やむやむ返討す為、徳光小をきて物に後  
ぬ果、以て物見せんと十字の徳井、振て子軍小面を犯し、解る勢  
とらふ事、小お付、い交、悪、兎、存、利、の、さ、る、め、く、徳、小、て、さ、く、と、あ、く、ま、  
つ、く、く、と、と、互、れ、に、徳、ひ、て、野、谷、中、に、元、後、討、す、為、久、世、三、四、郎、振、討、す、布  
元助、右、美、成、と、互、て、交、戦、す、お、お、熱、戦、す、君、の、難、儀、救、ひ、と、更、も、生  
死、と、不、厭、命、と、限、と、戦、へ、い、蔵、田、言、い、思、い、ま、さ、る、後、より、大、徳、切、立、ら、れ、い、い  
何、事、と、と、う、ろ、ろ、と、路、く、不、と、酒、井、政、親、情、け、り、買、し、と、内、介、より、榊、合、と  
大、水、小、な、れ、と、更、も、互、れ、に、徳、ひ、つ、る、蔵、田、言、い、君、の、小、道、立、ら、れ、悉、く、後、小、に

徳川家、常、に、先、て、透、方、も、お、く、追、後、に、山、道、に、右、お、れ、大、道、様、た、い  
道、幅、が、廣、く、れ、い、あ、り、と、方、を、示、し、て、近、き、に、け、た、い、天、林、山、の、山、道、  
先、に、六、巻、人、の、逆、路、之、方、右、に、沼、中、に、到、り、天、林、山、小、に、兼、て、の、元、親、立、巻、金、  
此、間、の、声、を、子、に、雷、也、お、れ、い、お、ま、め、い、お、ま、め、い、と、う、ろ、ろ、と、路、く、所、より、追、後、  
あり、沼、小、落、入、原、田、小、ま、る、い、人、馬、多、く、折、殺、せ、れ、遠、く、尾、割、へ、退、け、し、  
徳川、將、領、岡、揚、て、必、軍、を、収、め、り、  
時十八人の面に二寺の旦那と  
あり、後十八檀越と云はれり 田、務、乃  
將、後、長、門、中、是、と、少、蔵、田、此、方、を、不、得、と、し、也、 公、へ、使、を、立、て、城、に、徳、川  
家、代、り、此、所、持、城、へ、我、亦、い、強、所、へ、仰、り、い、て、此、所、を、亦、後、中、交、と、 公、は、右  
全、我、に、け、故、と、心、奪、い、ち、小、姫、を、君、より、引、離、し、依、り、い、何、れ、お、小、道、持  
為、小、但、世、と、い、は、る、者、仍、て、永、祿、三、年、庚、申、乙、酉、廿、三、日、 公、は、  
年、十、九、歳、お、て、是、後、小、道、由、城、を、相、今、川、家、在、番、の、面、を、七、所、離、れ、中



一、  
駿河へ立歸るる中、小政右の面して、伊前へ行く宣ふ面して駿河へ立  
歸りて氏主へり申上よは、友義元の討死誠以て是れ死すことされ、君父の  
仇は昔も天と裁へり、氏主尾別へ出馬の用心、然るに、今位長  
不意に大利を討つ所の時、大急に、何人殺し、恨み尾別へ、大掛かた  
あつ、味方、獨利、疑なり、行時、早く、出立、誓ひ、命、合戦、終久、し、出  
た、た、弟、我、も、出、馬、殺、り、一、戦、の、上、位、を、打、果、し、義、元、の、近、善、小、侍  
へ、と、氏、主、と、初、家、老、の、面、へ、終、り、を、し、終、り、と、信、合、合、合、駿、河、へ、歸  
終、り、家、に、今、川、氏、主、の、義、元、の、出、し、子、を、て、南、家、の、想、成、の、言、骨、に、ぬ、け、之、  
上、方、に、公、家、流、を、以、り、花、奢、風、流、を、さ、さ、り、と、丸、奈、自、然、と、暮、り  
分、乃、を、好、む、世、具、小、の、一、破、る、所、を、武、臣、の、不、能、か、疎、り、さ、武、臣、氏、主  
終、り、出、ぬ、と、ある、事、一、人、の、貞、少、年、小、侍、を、次、夫、と、て、討、つ、る、と、目、小

留て何者か、將そと、思ふ、不、料、於、人、去、後、終、る、將、り、て、深、く、仰、と、云、中、を、答  
を、ら、り、来、れ、者、の、子、也、と、思、ふ、と、ん、事、も、を、意、と、思、ひ、小、系、肥、前、も、さ、た、の、こ  
下、威、服、の、男、子、と、云、ま、て、父、義、元、へ、申、出、し、呼、出、て、心、筋、也、と、言、一、以、申、小  
丸、小、入、申、に、十八、士、の、中、三、浦、何、某、若、死、と、る、を、話、す、件、の、深、く、仰、也、也、  
と、是、より、三、浦、右、衛、尉、義、法、と、云、義、法、信、辨、利、口、の、者、何、男、色、と、信  
辨、利、を、以、て、氏、主、の、た、い、と、依、て、氏、主、胞、中、に、た、を、と、れ、何、事、も、三、浦、一  
人、分、上、と、は、申、右、三、浦、初、め、信、云、と、り、却、り、申、對、面、を、り、依、り、  
右、三、浦、も、見、限、り、て、信、辨、利、之、門、筋、に、十八、人、の、面、も、三、浦、の、威、勢、不、奪、れ、  
之、後、一、く、信、云、と、り、者、と、り、言、う、と、ん、今、川、家、人、是、時、より、將、り、初、君、の、義  
戦、と、道、ぬ、終、る、と、申、申、上、に、氏、主、三、浦、を、以、出、し、申、い、く、と、評、定、所、  
三、浦、臆、病、を、平、中、小、系、威、を、振、ひ、活、計、寛、樂、を、ち、り、不、為、歎、ひ、可



及つゝいふ事ありし事討死を計雖も思ひきくへて中々八信七小塔  
少て出しと極將元公の六万五千大軍と只一戦小あつと打猪  
好交元公と討死に古今例に記名將を君いきて亡く後よへき  
長保君此由武勇由父わけ及も極強を軍兵に初小なりて城田と  
名れ城田に初の一戦小打猪て南家の軍と物の致れ甚久し後  
時ハ戦ハば先小味方七右の負ありて上徳川に軍も南家徳代の由  
小あつ親子まで七心免され世中なれ今ヶ積小村母教中まで  
美し味方先小中ハ城田へ随ハ人七計雖も記名南家の長もな  
き不大方の門返一則是極勲昔の面と返出する振舞ゆはへ  
小極成終ハ由思ふ事其々存するは味方今英元とを記して猪  
腹の背方時なれ唯小中ハ川為民と長記城田家の交とゆて

甲斐の武田晴信掃と信合由一戦之務と中左氏も見小随ひ志く  
是後ハ由返さるりさりりけ時公ハ今川家へ命合戦と信  
以て後ハ氏去時ともしつゝ出馬あるに必定ぬと兼て  
由司意ありて上位長方中も先軍兵と追まられ横と合入て  
月々妻事らんハ必定ハ存ありて款を討ハ云甲斐をさす  
似たり地宜く雌雄と交まへて是由吉想の守なれとて大樹寺  
ハ由人数と押出され登臺上人を石とされ白兎四羊に厭離穢  
去飲淨七ハ八字と書しめむは是と由馬石と定下れ敵兵と請  
あふとハ長位より五の討も向ふ由法もかり丸酒井石と石  
見軍兵と川卒りあふ徒ハ是後ハ川ゆらんも如何へは是小  
城田方ハ城田何と押あて一攻不責味方の勇れと助へて思ふ



徳定方小彦儀の城小ハ之宅太志尉之儀田家の勇士楯築と  
少右いで妻へまきし由馬と向らる之妻少て何条放軍の徳川  
勢と居あかり中して之ゆわきし子勢川具一拂せ返さお出で  
妻我小初ハ是後誓我負りし神君自ら由儀本の兵を進  
めあひ之妻の陣へ馳入あひ十文字小強御りあひ小戦ひあひ由家  
人大森とハ補七一番徳之令を足立令保同く進んで決炮小中  
里死之是後誓物方せ人勇氣を振て妻我ひりく程子三  
宅終小強立られ進まると返折せりし事若干神君防士小  
向ひは焼かひとぬるへりし由儀不徳田令善允うあつる由掛と  
切せし由中知方て由馬と向まきりしに善善允あつる城兵の  
川連討へりし神君防士と猪猪りる勇士と標立由戦あり

り小城兵二戦小利と失い逃入不と追指し城下と押寄あひ氏  
家と焼拂引返さん之あひりりし善善允位平ハ又と居たる善  
士可れ打出さ喜あせんと由思ふ者大久保新ハ而忠利と敵と  
して川小強小討時信長の方へ彦彦より馬と馳し徳川勢妻進付  
左戦小中と中信長は徳川と追まきりしと問ひて負軍小ゆりし  
川強之尾別由掛分子馬と居て徳川勢城を妻ら由と信長云  
味方打猪ころと問ひて負軍少と城下と焼れしと中信長大ハ之後  
有折而由由小強も信元何公方不向て由の婿の元康大子の城より  
進付り我小強も是と思ふ小彦儀の城と攻落し別尾別と  
是也小御て由掛の城下と焼拂し中大膽不敵の段之由急死馳  
向て元康と討れしと不知方先ハ水地辞も不詞を別儀等あり



出陣者 神君是。少百法老臣と百集入宣いり。我信長は、  
小佛事と爲し、信元と討つ。是、肥前守の少は、社務後の一戦  
たれ流石、父甥の好一族とて、夫不及、心うたふ、あ、夫  
此家、小生、是、此、不、及、以、信元、の、名、を、討つ、法將、を、津、藤、藤、忽  
の、戦ひ、して、南、家、北、西、陣、を、取、は、さ、ふ、以、津、藤、の、死、り、申、後、れ、は、先、陣、大  
久保、守、を、忠、世、舎、弟、が、忠、休、小、七、百、余、人、を、兵、二、陣、に、神、君、は、旗  
一、子、人、を、高、嶺、と、山、法、石、を、陣、と、云、取、押、出、は、信、元、も、は、時、小、矢、回、傳  
十、席、水、智、傳、十、席、目、友、助、同、友、次、布、院、見、法、平、次、を、木、九、物、正、通、同  
之、水、法、秀、梶、川、の、為、信、水、智、助、久、米、令、を、忠、神、谷、新、七、等、少、千、余、人  
之、援、に、存、流、一、揮、は、さ、し、搦、合、を、取、つ、夫、も、互、も、名、を、討、つ、面、を、取、つ、戦、ひ  
あ、家、北、討、死、者、千、あ、は、是、際、自、返、さ、す、と、神、浦、の、下、布、返、合、く、金、也、際

と戦て討死其れ、同日、少、神、君、大、久、保、を、石、川、新、八、布、院、居、合、と  
石、橋、搦、合、く、攻、戦、つ、小、佛、事、を、大、原、九、道、を、能、能、多、并、中、た、多、  
矢、回、傳、十、席、松、平、和、田、布、院、一、先、也、と、て、合、を、取、つ、戦、つ、死、者、百、餘、  
返、さ、す、城、と、拵、て、迎、つ、多、を、追、つ、首、四、拾、七、級、討、つ、十八、年、此、及  
搦、合、を、取、つ、神、君、討、死、し、と、確、信、者、と、小、知、ぬ、は、不、可、部、春、母  
の、あ、戦、と、取、ら、ず、に、教、え、を、や、吞、れ、見、城、小、川、の、出、た、れ、は、そ、と、打、拵、て  
夫、より、軍、兵、と、二、百、余、合、て、長、江、を、渡、つ、あ、戦、と、取、つ、た、味、方、の、中、  
少、佛、事、の、交、每、尔、先、子、返、さ、す、り、を、申、拵、事、此、也、公、あ、の、法、法、の、武、志、と  
以、来、此、の、者、別、出、さ、ず、之、後、討、つ、公、出、た、名、は、何、と、い、ふ、と、言、事、此、れ、也  
柳、原、清、隆、之、助、と、云、公、曰、汝、が、名、は、此、也、汝、之、名、は、何、と、い、ふ、と、言、事、此、れ、也  
少、佛、事、の、名、は、何、と、い、ふ、と、言、事、此、れ、也、少、佛、事、の、名、は、何、と、い、ふ、と、言、事、此、れ、也



乃尔三々不向城之築也... 後尾張守 尚時信州

昭山三 糖糟塚の成原小豆原三九平長是作の案に松井左近忠次 後松平 圓福

六百四石 としてあらまむ同年吉良宗忠中多吉良氏命が小牧の成原

政人とい兵と臣向々不廣孝也... して度て後波繩子小出白ひ

吉良の軍將富永中三年と名宗死の... 多廣孝自身隆中を突

伏せ良首と云ふ

神君を以僅小西三河中此内也 全納め給ハて織田の大敵不向て由

合戦者廣原掛石漸十八町と初奉母長は多尾根西至車条

後波暖中中河山中醫ま山高田牛久保と初討勝り事阿けて

計新... 信長兼て思れりハ家大敵の今川宗元を討たぬれを

三をあるの法士必招ふ事... と思ふ不在別ハ氏ハ小随ハ三河徳川

隆ら大なる徳川の由元之... 元討死有氏ハ案初少し徳川と徳も

左後徳林の思ひもすハ後六徳川た之鬼邪と括く替有夫替之て

信長不敵討ハ叶ま... 定て徳と求て和勝河らん必定之と大橋小思

ハ此多ふりし夜ハ早馬来て 神君信長方此之河此城ハ一揮剣く世也

落ハ或ハ徳川と焼拂必中を討徒ハ到尾別ハ一揮奇焼備仕と反を友

休久月ハ案前ハ信長ハ前ハ案ケルハの原を有 二案ハ一ハ改ざれハ

必芥と月よといハ糖ひ流大ハ初らざる先子南正の大軍を以て三別ハ攻

かり徳川家とま亡し... ますん事ハ今川氏ハ案弱かれハ多別ハ世也

そりた世別ともし... 案ハ信長 定ホと定て海者信長ハ小利と又て

大利と又ハ大妻の生一ハ天下と治めんは徳川の如記ハ心金と事

よと味方ハ招ハれて... 我大軍ハ敵能て... 我系と割と事討ハ必











女子

初振井の松平と忠政の娘の  
と二市小幡又保神降の忠正の娘 女子 松平丹波守康長室  
元田九門一馬の母なり

少くすまひ一の内を流り我木才也七子也紀弟と定修の内世

以成松平の稱号とす下と後母公の修不子依の想从下河九市

定通 久松作  
海部 とていひり同力小久松助と定通曰治兵未嘗

同すはる吉次の子人足河九市と申也して出入河九市と教ひたり

けり而二河は收とすなりいいう中收りく是きおと泪とすはりく

終りれ 公曾百定て子押入し遊て守警夜 悪妻に計ひ

中よりし河振抄者相三人と 二市小幡と河部  
原之市也 百連り此是後河部成者

河部此は是を是めて知へし彼三人の三河おせり

公此直威勢強りれい三別丹後君不計して新し河部不助と河部

民部と名を替りたり河九市と討たり申中河五の依てとて是

河免と文久松平と名を治河治十はる吉次お人い下と流浪し

後河平哉中り定重の臣也 河部中より  
河部也 初て信元定修頼小河和

睦の事と河部はなり依て 公も河部方なり思ゆ河井石川おの老

臣一けり又おのておと河部者お人そて去年六月元討死の後修を

之北兵力と流せ中し君は祝子廣瀬忠掛河部十八河部初河部

女は河部根西尾東条河部河部河部河部河部河部河部河部河部河部

初てして去威を振てまた討治へた河部家河部一河部も教へ河部

若我もは抱小氏とい七文の仇と報せんとせ河部家一向て河部

河部は河部河部河部河部河部河部河部河部河部河部河部河部河部

さんと企する河部の悪將小家とて河部河部河部河部河部河部河部

公を奪つた人とい河部河部河部河部河部河部河部河部河部河部







多勢尚ましく勢なりけり勝利を成すこと直路院の父是承あり一旦  
の害と遁れん者當時智謀をかまへ和議仕はたまの和光寺あり  
只今も市人敷とせられ尾州征伐あり、尚家をへて先陣と  
勤へしあひ死つは行時もあり市馬とせられ味方の假懸を執りて  
りし市陣後ありし物あり入とて信市池を市下宮之西に七太  
別。若るれ市方へ出り社寺あり別市返そ悪交い飛入り及ぬと  
こと思ひて出たり只今の信を奪て信入信まゝ市方之只三浦が  
家意小田中急眼の中を信を奪て市方と追う陸河一内  
る時酒井將監も向い君の信を叛ふ小北に果位の規模あり市人質  
と下り入るや 神君尤の事とて久松定信の四男市舎丹も忠  
松平源三郎康信と氏名の言一返りせられ酒井忠尚の子小北殿及び市

を東源られり不依て西に立切り志ありとて氏名をたぬは思ひん免角  
此河内也 永禄四年極月あり 神君市家老中とされ先年  
大將の信長小方の家より下りたり 介少不流志之家又は返り  
年始の礼あり尾州へ立越信長小方前とて信を御中多苦  
たると忠豊とされ去りて安祥あり 平公忠より小一子者と美  
て少及今いりありありと信を奪れん忠豊泪と信 静者市家南より十四  
歳不在成り信信不生長あり市方へし戻出ありと中上 公中平公忠の  
十四日宛早月小立へし時あり百連ありと忠豊信市前と立出て伊  
丹の時 公忠信あり小一子とあり小一の勤あり小一の公忠あり伊  
丹公忠の將あり名い何と中そとて平公忠信ありと 公忠信の  
吉左の向いせられ信家家此麒麟児之尾州一の信子百連へし用意



後とては作甘りる在り忠を感法と流してゆきと云りて即ち聖々  
永禄五年正月申初尾別へ入るる此州信正三人あり其て  
久相定俊水時信元は頼と頼内者なり在信長討つる馳を以て  
乃て小茶屋或い成之妙と云ふも是時少くは老臣危く在人の心  
計難し先將頼子内足今以て頼と頼と中々不我其実を心人と云ふ人何  
ぞ害を合へきと頼内がし夫より尾別へ入るる信剛の成道直身不  
内れを信長より馳走の方不遠を多くしけ面を打寄元康いなる人  
をれで小茶此方として即信長の言致不遠を多しやと又も人  
立勝り古煙影に人致致る此中家在中此時云の如く信長表裏  
此據とて頼と頼君と内心易くは將内馬と打寄を致ひりて又下  
由馬の傍不内ひりて平八郎忠務生年十五歳謀小小山と云ふ事かや

甲より出出煙怪しく其立紙又極めて下と大長刀を引提去  
其不敵一騎多し出近月不降て其日の勢を大らし立白良人  
元康今も此城せむむ不何れも立唾くいぬぬ子細を中より  
老人出て内知内を此是に居内面へケ極くと中不忠務打突い元康  
とて同じ人互不致り事か目も二つ鼻七つ之入を面へ不致り方  
不内御の深男計之見苦く静めれよと但又其礼せよと信長の命  
勿らう是に中多平八郎忠務と中若事と礼をい存を内其礼の用持者  
へと援手の長刀あてちては信へ忽静まりて後内也城不  
て信長の不内對面者 頼君の内刀援せし此植村出羽も不内後  
し方出羽も内刀持ちりて内後へなり小信長の次此方あて此は其  
是と折集まると答るとつて是に植村出羽と云者へ其命



刀を拵ていまいなり何事とも言人の足跡も我おど何とてい  
咎むらそと大勢揚丸信長是とすて今井何者と同ケ極くし中  
信長史に及及一五段大割の勇士も不在止すと又へり早くは言  
へりとして我友へ出出由名之は下なるは是そこの程の田代燦々なりと  
感あふ初ハ 神君と信長も下もあらし何程のより有花小又  
若し罵々々々多々振立植村の者極と又て海軍言んりるそと後  
市科理杯出ると時藏田徳川足方のやくお小巻を助へてよ市科文水脚  
信元由大拵めて原不焼あ将右よん様ハ信元吞るとね是海市脚  
城有徳光表立今川方一由多切れの内合就知らぬお押氏真方に市  
人質者君臣もよ由心と痛めらる水脚中々い藏田市和勝隊を  
今川家由自切り由根子志くと又五して信長も思ふもゆゆ西三河

此近所今川家此城、修多あり何れぬも羨羨と云は市和勝隊  
根子由見を考て下由之良ハ和勝破へて上は時今川を不収る不  
又藏田方あまて、内難儀をん中り時、公も極、内思も考て  
松井在道と是ハ大徳光の由家老一ハ此在て只今西御の城不特及を助  
長持家りりい此道向て是を生捕へ左道た次畏て由更中よて私  
宅へ向りはりく思事一西に此城要害も子百余人あつたはり抄友と  
お男の秋子は時ハ之石右衛門南時小はるを伴行らる、其いお押者及り  
一は夜七と碎くそは評系致心とて伊賀の忍び上る者及て  
市南家へ仕へ人を取むた道小よ、こちて忠次方十兵衛信し忠次  
致心を叫出、我おふ極の信者り極り夜流すり極、こ史を  
まらとり大由道の力も能てして、叶あま、一兼て由辺の意中



以時朝廷  
正親町院  
御宇武家  
美輝公三  
治世ナリ

よりるはな何卒西へ思入精履と生捕後へ放心云是元より  
中むむ下小山吉某一人カ之仕扱しつめ何れ甲賀多府  
尾氏より小在生健中書同事なるつとて宿免此思ひし(中)此れを  
語ひひも立をぬく(中)しん去さるるが就して由家人とぬ(中)や  
忠次別湯前へ出小外の某討ふれ心持よく斬り思ふを  
与し(中)神君は笑はれ我目利小不遠い(中)あし  
才が就といひ出さん(中)忠次仰りて右代次と更今も信(中)故  
心(中)宿免は思ふ者十八人仰り(中)三月十五日の夜小お宗と云ふ  
城中小思ひ入長持を夜に追居る(中)宿免(中)申さる  
即ち十の夜月の隈(中)風雨(中)宿子の外小持むく(中)考ふれ(中)怪  
し(中)やと何れ人預あり(中)初(中)知れ(中)と(中)麻不(中)知(中)ぬ(中)け(中)麻(中)の(中)隅(中)小(中)隈(中)の

と放心思入てむむと組かから夜忌(中)ま(中)い(中)ふ(中)と(中)驚(中)る(中)所(中)お(中)の(中)れ(中)  
何者ぞ盗人々(中)今(中)れ(中)也(中)全(中)者(中)た(中)い(中)い(中)何(中)ぞ(中)切(中)り(中)る(中)と(中)夜(中)忌(中)あ(中)て  
た(中)力(中)と(中)叫(中)び(中)声(中)を(中)て(中)る(中)と(中)此(中)次(中)の(中)り(中)れ(中)者(中)夫(中)々(中)何(中)れ(中)ぞ(中)放心(中)が(中)多(中)れ  
云(中)は(中)た(中)る(中)也(中)申(中)す(中)宿(中)免(中)と(中)長(中)持(中)を(中)見(中)殺(中)し(中)二(中)男(中)夜(中)之(中)布(中)ら(中)う(中)る(中)は(中)く(中)を(中)い  
つ(中)ら(中)に(中)追(中)ぎ(中)隙(中)小(中)伴(中)の(中)中(中)書(中)の(中)精(中)履(中)の(中)婦(中)を(中)思(中)を(中)搦(中)取(中)置(中)城(中)小(中)火(中)を  
く(中)け(中)表(中)の(中)方(中)より(中)引(中)れ(中)り(中)る(中)お(中)精(中)履(中)の(中)後(中)卒(中)始(中)切(中)く(中)と(中)引(中)控(中)て(中)追  
さ(中)し(中)と(中)追(中)ぎ(中)を(中)心(中)や(中)ら(中)ず(中)と(中)云(中)れ(中)た(中)款(中)い(中)多(中)き(中)事(中)な(中)ら(中)ば(中)僅(中)十(中)八  
あ(中)し(中)危(中)れ(中)の(中)放心(中)下(中)知(中)て(中)我(中)い(中)言(中)ふ(中)に(中)防(中)ぐ(中)ん(中)建(中)置(中)の(中)面(中)は(中)生  
捕(中)と(中)左(中)近(中)忠(中)次(中)も(中)後(中)を(中)と(中)云(中)る(中)も(中)た(中)く(中)松(中)明(中)桃(中)灯(中)も(中)て(中)追(中)ぎ(中)る(中)所(中)  
言(中)桃(中)燈(中)大(中)明(中)松(中)き(中)め(中)に(中)候(中)し(中)る(中)の(中)軍(中)兵(中)周(中)を(中)仰(中)り(中)て(中)美(中)作(中)は  
必(中)松(中)井(中)左(中)近(中)忠(中)次(中)遣(中)兵(中)沙(中)而(中)余(中)人(中)思(中)煙(中)と(中)云(中)て(中)與(中)て(中)掛(中)れ(中)る(中)者



の方より國の声ひくを吾も 祢君より人殺一五小世と押寄りぬ  
大将をさうろちて傳四角へ言小逃散小仍てけしや城代中は久松  
休後を定後と入まれり 祢君云西御東之河北要害北地中  
急心とてしちを治へ氏を奪返えんと申すへしと信けし時氏も  
西御内管かゝ祠を將怒と恐れ南時害を道れんが代中和睦  
とてうりくとして舟られ小東之河北麓以小原肥前より早馬  
来て元康心と愛し西口の城を奪返えんと信をきく氏も  
よて怒三浦をおぼして中を奪返え 竹子代君 永禄元年戊午三月廿日渡河  
少將の十所して中を奪返え 氏君  
と害してし後大軍を發し元康と討元へしと 破り三浦を下知と交  
り其代親又國に刑少捕親永 大成元小は  
元康と名 是と少大を好むと歎  
んと思大氏も三浦の祠の介へ用ひて討小関口と三浦の中急し 信

十八士の内新神左馬介と新三浦小俊せしと新神は三浦小而下云  
け間の災ありて関口自害せんはたあは親族と殺さるる君  
と諸士憤りて内憂あり住川織田武田小糸の強敵の中必討とて  
て妻事とんをよた之徳川家織田と一味あれし人質元重内へ  
南玉(妻)令列愛傷ありし只今人質と殺さば恨骨髄小  
今織田と津邊を妻事とん必奪へし三浦勢も氏も一向新神  
の祠と己の祠とて誦むる小氏も危も角も此小但も重間宜く  
討ふへしかりしは事母子危難と道れぬは事三河急將小  
ては石川と七郎新正公の御前(出平伏)公の御後(何より有)  
内多小數正備て傳承り渡河の若君使命危し其小承西膳  
とて下重の渡河(立紙)若君は新後(若君)討ふ小向累



初戦ひ若君の由外借花や不討死せんと思ふ所ありしに  
是とや言ひし連丸の以方なきをわらひし中服中浦用と  
言ふも此の忠臣の何そ一人の小児代申きて志なき事  
我初より小児と捨て家と令せんと思ふ所ありしに  
とは信教正細といふ小形小形中浦用有る事思ふに  
書き残して強河を以て言ふ事有る事思ふに  
書き残して強河を以て言ふ事有る事思ふに

書残し一通

私身先程分し有恩莫方不申文の付返  
此所眉と焼の危き小形小形中浦用有る事思ふに  
是れも不申附添はる事思ふに  
最初と及批判結更三河玉有る事思ふに

中浦用は初と考ふ事思ふに  
此所眉と焼の危き小形小形中浦用有る事思ふに  
是れも不申附添はる事思ふに  
最初と及批判結更三河玉有る事思ふに

中浦用老翁中

と有り依り 初と考ふ事思ふに  
是れも不申附添はる事思ふに  
最初と及批判結更三河玉有る事思ふに  
中浦用は初と考ふ事思ふに



や大石代家本として當時我亦不為面と、為か如き只亦きり此を  
よし新也もあまうして二浦多角た無いと返るもさふおあて無心  
思案とふし二浦の家老も近付不致る又時氏其の臣下もこれも  
武田北条(具見)く心とよむ氏其の極の俸をれ一五年の内  
敵も取ら必定之只今代も攻亡しめと云送るを別の徳士も當時  
神君代(武勇)と感し大に是松平清康帝二股たは清原何其杯  
めし心と考とせむるも中不を別井伊谷の城を井伊肥後守と親し云  
三二の今川と一武時但下の勇士も但馬と云ふ客中分の氏其  
所三浦の言のこまき人唐一の忠臣と推しり、是將成透るも何ふ  
信言北条たと氏其の揮傷えい必定之情も皆氏其の考討死  
あらんより幸徳川家寛仁大交たれ、是も促ひを別(ふ)りて

家を起しめと肥後守と親大も忠我、今川おの忠と為の徳代  
お侍の身こそ主恥しめり、時、臣死をえより、官士戦傷不死出る  
ハ兼て申如之務、お申込の一言今一應中て又上今存と云ふ  
ま、と云但馬希面して追記述、け申、肥後守が口より、波丸人、而論謀  
と云ふ、と云へ、と云、急れ、徳府(三誠)相、我も、但馬井伊肥後守と親  
返還と企、我と招き、ケ柳、お申込を、府中、い、徳令、中、申、信  
と申、さん、為、第、上、仕、と、云、二浦、え、り、肥後守と中、悪、し、た、れ、幸、と、云、の  
次、も、お、親、と、云、さん、と、云、別、掛、川、の、城、の、朝、比、奈、備、中、身、恭、能、の、立、氏  
と、云、此、下、知、と、云、也、井伊肥後守と討入へ、と、下、知、と、付、入、る、後、不、新、再、在  
了、の、日、以、肥、後、守、の、忠、信、を、知、り、上、小、井、但、馬、の、所、言、を、て、二、浦、幸、ひ、と  
下、知、守、と、申、と、苦、く、交、思、ひ、使、を、馳、り、肥、後、守、も、ケ、柳、と、云、告、知、せ、る



元より二心多し肥後を是と守て大木守き、自ら碓氷へ三載三度有と  
述て渡人と對面せんとして終小中入り大幣の氏を不害  
折之て碓氷河へ流く向より朝暮不傷中より百金計りて出せし自らの  
討多小向小といふ事也知れし子神と告て別の碓後をも来さんと  
分りくと馬乗おるお傷中も是より幸と同馬と道月原や井伊反  
何とて強あふやと並親何の心もせず我も脱し虚名を蒙り中流の  
乃只今碓氷河へ流くと子神と述んたりと泰然と言其代勇士を  
子神とて尋ねし氏名はの事言たりとて丁と討是は碓後  
碓後も身を却くと事なして左の肩先より打たれんと大木守  
小切難き如命守板運切てくるお傷中より人殺大幣なれを  
返元おめて悉く討たぬ新神たるは是を討つは是は後悔也

て忠臣此程を記す二載の男子百子代と云ふ身命子孫を忠告有

己の甥と偽りて其子と語り平後又三河玉井久子此城に奥平

貞佐と貞徳は 會六十二代村上天皇の皇子具平親且より十三代村松則宗

村松小隆は忠とて大男と成り見玉堂へ則宗小男子二人有嫡子を家能と云はる  
五代の孫は後醍醐帝小佐一若松小隆入及系心なり別系は二男と氏訓と云はる  
父の幸丸は一族児を存せしむる事と成て家能と後上州貞平の御孫也又其孫は  
是より貞平と稱軍配系能の役と成 貞平小隆の貞佐と云はる上州より三河へ移り建久  
子の故に切れて佐佐木貞佐と云はる半一歳より後小隆の子と  
監物貞昌と云ふ子監物貞徳入道と云て當時七十有年其子と貞佐と貞徳と云ふ  
當時の事也 父監物貞徳の時より今川の旗小隆は居たりしが氏名武田道平  
信人としし則二の朋友井伊肥後を討死せし事と傳へ懐思ひ  
此の貞徳父の及文其子の九公命貞政と稱定わ及るは只今氏名、悪將  
あり信人の三浦一人を討た取及と討らふ信人元元四臣懐て武田系  
又武田へ心を寄ると傳へ又三州も多しは佐川系へ内互わ及り信人



一連七人の氏名一の家一が今川家の譜代より以恩物に氏名と在り  
何ぞ家と七連七人の仍て徳川家と随ひて家名を立んと思ふに如く  
立りて原くせんを別川より改むと云ふに服尾を原を改むて既  
神君志と考へりる氏名はもと付園又三浦と改後を服尾  
煙二股の松井御考を考へて氏名の改む出に立加ひ考へて事と信  
ひるに氏名 服尾と信て徳川(改三浦氏)に元句一新形方より改む  
は 服尾と改むに川原城守  
新形方あり人あり 新形方同のいひありて在文字の刀より板折  
大加酒石切名に服尾より改むてを改むてあるを二つ  
切て二股より二つに改む信て服尾の家名に同安藤に同加  
公此由味方として考へるに後室と考へて信じて石川と七連  
新形方より新形方に在る信方ありて用意の令子考へて野交三浦

徳り為面と新三浦信て為面一之河よりハ何と考へるに同石川  
云今川の由家と云ふ由一人ありて中村松村に信じて此三浦信  
半信ありて後考を考へ(此一人信じて考へるを捕る見ても人  
の人實由九段に改むに今川家の由家本流中三浦公の仁徳と感  
深忠心を考へる)と云上徳川家も氏名公此信考へ三浦公の由恩  
感味方必定と云

或説に石川新形方死す後家を本流と徳り考へ徳川  
家代考へ九段信流は三浦公の仁徳と考へては(本流)之河考  
と考へて、此河原信考へ考へるに考へて追考へ  
強か入り入りも其後有人實と考へるといふ時考へる云  
ありは時多川と信と云



三浦大内膳正使と何人か節へてとて中にお節へてとて公是後へ来  
るゆゑと申す信し 公由は従ふ川の忠信を威し多の持戻り子依  
兄弟を後河へゆきれてと後清基君是後へゆきせぬと申す  
由依中由信代元令子系とて中連不也と入るとして是後へ入せぬ  
る君四歳に及ぶとて少御殿に心算山とてふ所を主なり故に時の人等  
山中節とて不見しといふ實の持者なりゆき申す今ハ心切なり事  
多紀元永禄五年六月廿九日の今川方物持新六郎貞次後右馬允目  
出將を清成とて攻陸にんといふ所用意者なりと

三河後風土記正説大全卷九終

三河後風土記正説大全卷之十

一の宮後信

後系後河あては人質返しとて後ハ石川再いゆきざり左怪  
しむ知りし京肥あさ言より早馬来て謀事歌一の文の機をも  
往川家へ攻えられ本多右助と申者と信を以てと信を以て武美  
通りよりして大お守り二五なりは二をがいに徳川家におたされて我  
存ありといふ又物事とてやと後河に思ひ知り先を俄に中一軍令と  
出され人数催促方と三浦大内と信を以て徳川家におたされて我  
出され武田信玄降と何れ風説にゆき信面与大と一某君の内若  
代お孫層お孫りといふ令存の思ひありと思召合戦を願ませぬ  
氏共思味の大物なりと申す信を以て三浦と申す日外徳川家にお節と



可殺と存す。前関口親長が婿と成り、近小形成信の関口も、徳川家と内  
應せしむる計ありし。先是、小諸殿切り、軍神の血祭として、湯田江  
に方と中、小信を、終に、関口、小形、切らせり。相信、古の親父、武田、左  
衛門、信虎、史、命、して、先、小、大、將、と、し、八、字、人、後、陣、に、氏、共、一、万、二、千、余  
人、被、虜、共、軍、中、は、三、浦、左、衛、門、法、休、名、駿、河、以、前、親、罷、下、と、残、り、由、て  
永、祿、五、年、四、月、中、旬、駿、河、を、方、立、て、三、河、を、拵、て、右、向、あり、は、中、早  
是、時、へ、ゆ、へ、り、れ、し、神、君、信、君、を、百、人、供、侍、氏、共、南、宮、の、義、徳、を、憐、れ、  
大、軍、を、發、し、て、妻、來、す、我、先、軍、一、の、宮、を、妻、夫、て、彼、所、共、害、事、中、  
多、百、助、と、名、稱、を、也、敵、軍、中、を、乃、分、れ、し、氏、共、大、軍、見、と、攻、へ、す、は、必、定  
なり、故、小、城、方、なり、出、陣、し、て、後、信、と、な、ん、と、思、之、面、し、用、言、小、及、へ、し  
と、是、時、内、井、石、川、と、初、ま、て、河、を、拵、へ、中、小、氏、を、乃、家、中、跡、代、大、將、な、り、

亦、從、小、面、し、義、元、以、來、武、功、場、敵、を、老、死、し、上、二、百、合、中、人、數、を、割  
別、當、代、と、ある、信、虎、先、陣、中、に、お、し、し、味、方、終、の、小、人、數、を、拵、と  
敵、地、と、小、働、山、中、に、危、き、由、一、致、只、百、合、と、拵、返、し、南、城、軍、士、を、言、し、て  
由、一、致、を、拵、し、中、小、氏、公、由、機、嫌、拵、し、出、陣、陣、信、見、り、敵、の、攻、を、攻、元  
日、時、小、掃、ひ、拵、ん、拵、別、城、を、抱、ふ、事、至、て、ハ、味、方、の、三、百、士、を、拵、小、形、ら、せ  
氏、共、宗、小、形、城、と、も、れ、敵、軍、を、あ、ら、い、後、信、と、な、し、と、約、を、信、せ、し、は、交、と、せ、  
中、多、小、城、を、拵、し、一、命、を、拵、て、ち、い、我、こ、う、後、信、を、拵、れ、二、條、を、拵、  
の、人、數、多、き、を、拵、當、後、信、を、拵、一、條、病、の、拵、事、拵、て、城、兵、と、責、教、を、拵、  
見、あ、志、て、拵、し、人、を、拵、る、大、將、の、家、來、共、拵、後、信、の、人、の  
拵、る、事、乃、宗、氏、武、法、に、は、交、の、後、信、を、拵、換、し、し、十、日、後、時、に、討、死  
と、拵、る、事、と、し、生、死、命、方、と、同、時、に、拵、弱、人、數、の、多、少、を、拵、及、く、と、拵、當



之を以て信虎を為井石川の再臨之中に其勇氣を盡すに及ばず  
御前君は信虎は君は方々討死せん何れ今も惜う人死と流  
恨多信虎人殺す信虎は二千人と云相氏志は二千人人少く押来  
らぬは先軍神の血を承ふ一の文表(素)なり かな言ひを攻殺  
し其後信虎を安破しんと評定と入告信川家勇兵衛  
信虎送寄す其も後信虎の事もあらずとて武田信虎を招き  
市川八子余人少く信川家後信虎を防めし 信虎死す  
公は道にありて信虎を備へて其志は信虎右近音田内近江乾也  
先子の物として後信虎は元定跡を継ぎ利久温井山城を二  
陣とし其志は先陣は相氏信虎中と定めし一の宮(攻)を討  
公は歩人数二千余人少く火急に并て沖の敵を退拂へし

とんて多信虎 神君の曰さる弱敵として沖の敵を討つに  
信虎を何れと先子此も死せし何れに存せん人数一万少く先  
物少くしと云まて信馬を招(信)信虎も 公は信  
直信と信虎は人数の長蛇は信(信)之面十元切自ら馬を宗兵大寺  
揚て下知と信我(信)甲州に在り馬矢を信の数年向軍を退  
す中何れ人の方小鬼神と信信虎が信今日と鼻をすりし  
元康が信何れ中何れや信信虎の信信虎を退し是て討元信信  
神君の内信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信  
畏て信馬を宗出(信)物信(信)信信信信信信信信信信信信  
信信武田信虎と信信信信信信信信信信信信信信信信信信  
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信







八 張の者より願ふに後田中將と徳持合すに直親周往訪中將  
於て賢いと面も好らば馳命く命を限と戦ふに後田中將甲  
の御と切崩さる事つたすに於持合すに直親周往訪中將甲  
血を引と大馬見たりと復しるると云いやりなり底くとて一宿早平  
と押さて働く事平を成れに大軍の力も退きなり督下にて戦  
り多し石河原に討つと云ふより早急の左衛門出せは侍者  
と柳平小平吉康政大久保吉右衛門忠世同次多の忠信松平初四郎  
信一が多き平康政久世三郎忠見助を主と神とて一宿早の勇士  
我を事と突てやれに水族中の熱軍一隊と出と死かゝる信虎熱血の  
血を引と見たりと是社名後賢也中陣成ると人殺と親と様日けて  
一戦の上ホ生死と交せんと思烟と云て戦ふ如し思ひも奇らぬ丸

の方より毎時膳の籠一流居て石河原と七郎親正一軍を引て切て切  
ては信虎内より極力なると三方不敵と更列仕乱ると見たり  
石を是勝勢七將八衛と捲り切と喚叫て戦へに石河原督退き  
此を引と引退くと於てやと追詰と楯立れに一の交れ楯  
押寄れが多し助切て出た水もなれと責まれはしと信虎一退  
七退一退を氏名に陣へ見れ一と追り如し洗草の隠れ合の警の  
指物にける武志合小さぬ十里系の隠れ居ると目かけて敵此  
大將信虎と見たりと目かけは降合すに先之引退して後負あれ  
と大將と度けて追押る信虎振返り見たり尾形めくはしと  
信虎雷の落掛りめく是て日以迄物と名しと一馬も一羽も  
心地も閑くも場を逃れぬ公に於て百助と百連と一の宮へ入



廿九日長居其尻不暇只汝之敵人為之則人馬と返すべし  
所不効不よりて速不歩人教と引さるは時氏其ハ一之を一押し退す  
一里中引きて陣とせしむる事一の言は言わ南て砂煙を巻圍の  
声地を冪を相い敵味方一我者をも心付傷を探出さんとす  
信虎の如く戦ひかりして氏其の陣取に地取り志しよの以中を始終を  
演説其氏其面色去の如く後押し詞を出せ若くは死を以て飛ぶ  
後外へ氏其の先きの大將葛山伯方も別は兵被大ま為人陣に  
此事今今敵兵一我に切傷て一之を不務り山是絶不中て味方此  
有利之元康老切の大將多し速不引退へ要害浅層は石千餘  
と味方大軍の一日の攻をハ城中に矢と薬少くして崖城せん  
目前に速不の之と攻を引く力を於此して足る氏其雷立

まうや傷を探出せしと下知ぬ先陣度原太進吉田内道外乾長つち  
ハ幣 二陣差枝控以元定新及雅兵介利久温井山攻也 二ハ幣 三陣差大  
將氏其築中此先陣ハ朝比奈傳中守葛山伯方と先として之を  
一万千人衆ををあわこわんて一之をむす不任川幣ハ引れて  
一の之をば敵一人も何と返すも氏其の初は宿軍不遠し西十町許  
小代言の山除不熱石の旗印めく是社傳可幣上十幣ハ大敵を凌ぎ  
はるる人馬も息も絶せし引を迫りて急討せん。度原吉田乾  
長大將も知ても傳を探し探して進めぬハ後陣も是し不後れし  
連綿として死にたる熱帯敵合二百余人中七山も人成し池うれハ  
ハ幣 大將も向て戦いしと味方の小將た之槩海法良ハ幣 有とも  
後へもやしも何しハ此人數尋易とて人へも不中多百助馬依不池







等しく二階下をむ後枝持氏母後飛馬山温井山城守之勢三千余  
人固一音とと旅之進め切て是より大久保見守心の居る所  
とて是より合右の所を引移り戦ひ争れて討死と又争ひぬ本陣小  
大御守は後て惣右共旅厭難穢去欲求浄土の馬下尻小翻翻し  
砂煙を卷き水勢一千計而余人鞠くと切てはる所旅幸先多ハ  
酒井と四郎幸忠松平と四郎信一と先小進と床死と振と足てし  
柳原小平を後込せ務務合せし元服後中務天世と平信大原  
乃近右共杯と云し鬼神代也御勇士はとめくと引控る煙を漸とて  
一歩も水邊を不入れぬ吐と傷表露り知と重忠信一遠月も切  
傷と打込虎代竹林と出らぬく切てはる大久保見守はよるを以て  
味方既小助来て敵の傷を打破る内よりも標合よと面と先小

とて向と敵軍とより射又いごごといより切もけ敵の討つ力とて  
物とせぬたよりきて切落し死遠て突落はけ替ひ小辟易し  
て後枝持氏の傷をけ後て旅平政せんを争う如く氏志の旅中傷を  
先子胡比系當山と子余人会釈も切て是より 柳原内傷と十重  
十重と五圍む 柳原白旗と振立させぬ大書書して小下先者りハ  
敵の大旗を引きて戦し扇切 味方ハ小旗とて大必死切先を切立ぬ味  
方の勇れ傷れり今一扇此戦味方のうハ港野命を限りおかし  
と下し味方と掃く事ありし士卒之扇を引いてはる元より名を以  
三勇士先をとりハ是れ中野まさるとん先をとり港をとり安し是れと力  
とて八面と南と切り子孫と一語お放して川を遊め地島海辺  
中務服部中務内野谷まゝ元大原左近大為 足助と更松浦八郎と布木











徳兵多し其方加は討者數を乞ふは氏志も危き如く城不助に  
伊予大守の命を授け防く方お潮合を断りて強別へて近攻らぬる

是は軍の神君  
中自深の一戦 初て氏志一の文の軍井原に於て其時を初め多くハ

神君の徳ひを以て公海井忠次を以て我物時々合又扇多馬京法印而

牛之出せしと申せしと別海井を以て物時中史より厭辭楨古の

伊馬平之出陣に於て合兵七中貴其辰日九分より之指方是より馬

下と成物時を以て任用し給ふと云は侍身小田原陣と合又扇子を拜少

と云ふ初物時初大布貞成後石へ酒井の娘を以て其時を以て侍身是より

之に代たると云ふ 神君は初より伊右宗政より家康公を以て後酒井は今日

川方板倉陣と同日水槽屋居る其小原友成布と云ふ其合戦有るは

終板倉陣に迫る侍兵居る其討死し東之河の流に流

まう申す方々人仰威之河小井子辰勤也

初て永福五年 秋九月 酒井雅楽外と云ふは侍出する我既

徳田より徳ひ合川と徳志を根に堅くして其を廣くしては若

多事侍身以親兵糧を以てあり其定を以て其後十布と指すは其

指されたり侍身兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

糧兵糧何事也其兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧

兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧兵糧



の粗派少少の借用は之押身返と下りし中を一弄し借まると返  
るありやうゆい早運へと急は若く一運ひ入る上を幸ひは使  
とせと等しく只今軍中兵甚大切に先着派不面一急云  
利もあつても格あつても返されや論文も入借まるとし納  
新派余上まぢハニキ障と入立部の中より急相と何より丸  
由て人々も肝を清く志しと云上を幸大十五脈し人お物  
を借あつて返さても不守元今もの法外に極に憤り計海北正海  
幸神者此本籍幸使を立の事して少松岡山野人盡之は身も護  
まもりの借まは板子事せぬ事せよと少松丸始に代末少の曲事人  
井村屋雜記事之者何思ふやと正海幸本籍も詞を採へ是  
信心の日記と雑記集めて去語者へしと仍て三々入檀形も士民へ

人と身も急不お候の事者といふ不依て五百七拾年人子連ホク子信の事不  
てお候是後まうくは申渡れてつとる家もくは農具と携へ来り  
福一子四百余人にた之地以りせよ地以り時の移りよの幸は先祖の墓  
所一すも幸舟川を舟つたがらば後十席とやういふ事以て討殺さん  
いふ事反是に官下りし人と誦先を辨むるも少格千切其を引提置派  
富正の押寄園と作り押入雜物と奪ひ丸しお首は右十席に是後一出  
仕りたるるを在事老少周章路くとまみ打佐とやこみたる事係  
し奪えたる雜物と悉上宮幸一すひ入猪園と作り引返尺井散され  
たる事等も急は是後一す誠置派不若事不定取置派酒井政親不  
ケ所くと若く正親大不立後して上宮幸一帯此書解と以て初録と  
尋る其書小曰



凡僧徒以榮和忍辱為神以慈悲為心元生利益せむ。  
と為出家上之寺の僧徒も永懐此幡幟と為上邪又の志と  
と之引提衆を此女童を并擲する是僧徒の法戒の五也  
一 仇を報ると稱し男女児童を并擲するは出家の波羅門の  
惡訓小を以てし其也

一 葦原の家内へ礼介て御室と奪取する盜賊を類たるし不存  
有の謂て言上し裁許あるは是犯者強敵の沙汰并可及免  
見すも僧徒小者へつら以て奉勅能くも志とて其の者人  
輩をより一向宗の將不戒律と不更女犯と免し一併會と不  
以して肉食と當に佛寺を汚し或は神社と怪しめ仏法僧  
の衰ふとや其王公も佛の法をたもて是兵礼の因縁く

亡王の墓々禁して七可極は此家門たるへ

一 上宮寺に上宮寺子の名を借りて号し一併し上之天子と  
之を以て法宗不戒へり志とす天子の御言を不守放逸  
小御才玉滅小類とへり

一 歌と丸女衣と号し其仇傷りて志傷不地以偏不幅幅  
の多小似り多小阿らざる也一取ん放逸と心と貪欲  
愚癡の若神偏不天慶破句のて為不引と以上

永祿五年九月十九日 酒井雅樂女政親

上宮寺へ

邪て使者を以て五次人の口上を葦原居する中守護し不入の地を不  
知して押て其穀傍の事不届至極之儀夫上宮寺僧法を存せり



本隠便の所及及委細訟(裁許)下以任の如多勢之俾(理)不  
小定取の家之追捕し衆を以て事(之)を死せしむり并擲し刻に  
悉奪九某河の糧積ふ百信を但道厚の事好ある事細承(之)  
濃説を上之正由も本稱を折きてける事何者(之)と評定(之)不  
幸計時後(之)事務(之)親後(之)源(之)氏(之)入(之)道(之)と(之)事(之)り(之)れ(之)是(之)を(之)折(之)て(之)  
換(之)抄(之)せ(之)し(之)家(之)の(之)出(之)家(之)の(之)才(之)り(之)れ(之)と(之)云(之)不(之)仍(之)て(之)源(之)氏(之)の(之)所(之)發(之)也(之)若(之)使(之)  
小(之)為(之)面(之)一(之)上(之)と(之)述(之)る(之)如(之)と(之)只(之)一(之)討(之)中(之)て(之)我(之)亦(之)有(之)る(之)曾(之)是(之)より(之)亦(之)何(之)し(之)  
上(之)六(之)之(之)寺(之)之(之)城(之)郭(之)小(之)五(之)立(之)兵(之)糧(之)矣(之)と(之)傳(之)一(之)方(之)刀(之)長(之)刀(之)之(之)入(之)三(之)別(之)  
訓(之)の(之)今(之)川(之)家(之)の(之)城(之)を(之)破(之)る(之)に(之)一(之)擄(之)の(之)亦(之)方(之)と(之)云(之)と(之)云(之)

信玄兼ては思ひり上洛の時乃及形(之)不(之)任(之)川(之)家(之)之(之)何(之)卒(之)是(之)と(之)  
只今(之)内(之)不(之)亡(之)一(之)交(之)は(之)思(之)り(之)れ(之)大(之)氏(之)志(之)同(之)亦(之)有(之)信(之)佐(之)と(之)云(之)河(之)也(之)

難(之)を(之)兼(之)て(之)内(之)憂(之)と(之)志(之)一(之)後(之)源(之)氏(之)の(之)所(之)破(之)る(之)に(之)一(之)擄(之)の(之)亦(之)方(之)と(之)云(之)と(之)云(之)  
心(之)せ(之)り(之)し(之)い(之)ら(之)ま(之)の(之)報(之)小(之)二(之)心(之)と(之)生(之)して(之)亦(之)と(之)何(之)も(之)事(之)け(之)る(之)有(之)

結(之)交(之)内(之)家(之)東(之)一(之)向(之)宗(之)多(之)  
北八日。由礼  
七日止。初る是(之)幸(之)と(之)女(之)新(之)企(之)ら(之)と(之)云(之)

上(之)宮(之)寺(之)正(之)由(之)も(之)本(之)稱(之)を(之)擄(之)ち(之)り(之)最(之)早(之)以(之)味(之)の(之)使(之)を(之)殺(之)し(之)て(之)上(之)と(之)云(之)  
是(之)報(之)不(之)友(之)後(之)下(之)の(之)面(之)を(之)楮(之)幣(之)に(之)取(之)り(之)て(之)今(之)戦(之)の(之)用(之)と(之)云(之)事(之)は(之)家(之)人(之)  
其(之)中(之)に(之)是(之)と(之)云(之)は(之)世(之)に(之)為(之)の(之)男(之)は(之)る(之)人(之)未(之)兼(之)承(之)し(之)の(之)孫(之)陀(之)佛(之)小(之)向(之)て(之)  
弓(之)の(之)引(之)け(之)り(之)と(之)云(之)物(之)も(之)石(之)河(之)に(之)計(之)得(之)れ(之)正(之)由(之)を(之)之(之)に(之)付(之)る(之)面(之)と(之)云(之)  
蜂(之)谷(之)半(之)之(之)魚(之)久(之)世(之)三(之)四(之)布(之)同(之)平(之)四(之)布(之)浪(之)切(之)綿(之)七(之)布(之)負(之)助(之)太(之)史(之)  
近(之)着(之)新(之)三(之)布(之)巾(之)多(之)赤(之)布(之)大(之)振(之)七(之)布(之)黒(之)柳(之)綿(之)布(之)日(之)金(之)十(之)布(之)  
川(之)澄(之)文(之)助(之)淺(之)井(之)吾(之)三(之)布(之)日(之)小(之)台(之)日(之)五(之)布(之)作(之)古(之)尾(之)長(之)在(之)  
後(之)部(之)吉(之)蕃(之)日(之)八(之)布(之)三(之)布(之)日(之)半(之)務(之)日(之)半(之)十(之)布(之)日(之)八(之)布(之)五(之)布(之)















君と云れ成にけ居し君之側て己威と云居ん<sup>と</sup>又八日以の然と云  
むと云る所あふ所と云公小直信も今日の教成今日責傷を討る  
事七明り一控かいた小依て五不疑ら<sup>り</sup>安成する事<sup>り</sup>割東條の城  
小八吉良吉照榎井の城小八松平監物宗次大原小松平吉兵衛宗  
酒井將監隙を伺ふ去呂計高い長崎の南小南て志道一<sup>つ</sup>世も依高  
いさ重奈云上野の城い<sup>れ</sup>枕小南て遠と伺ふは時大佐安二<sup>つ</sup>吉  
少も松平吉重元信宗一竹ヶ谷と云り松平紀信も家忠の形の家と  
云り松平吉重元信一八反井の城と云り大井小南多事居る深澤小  
松平吉重元信忠指高り大井計高の城信と日一夜小我ひて根  
煙天を振ぬ園の声地と動も大久保を在る<sup>る</sup>上和田の城い長  
崎と云る事<sup>り</sup>本及中何れも城信小我ひ原此<sup>れ</sup>故大と云今迄と云る

友是後よりしゆ出馬者<sup>り</sup>救済ふ松平三孫の自らの家と云居<sup>る</sup>榎  
依高<sup>り</sup>城と防り小栗三族は同計の策と云りて城信を防<sup>り</sup>けし時  
後田源を在る<sup>る</sup>上と云る事<sup>り</sup>一控の榎大津も在る<sup>る</sup>乙辰八三末為人と榎  
十<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>教兵<sup>り</sup>不<sup>り</sup>は<sup>り</sup>を<sup>り</sup>榎(要害)も在りて防<sup>り</sup>く少月長治表と人ま<sup>り</sup>ま  
依<sup>り</sup>も<sup>り</sup>叶<sup>り</sup>終<sup>り</sup>額田郡那知の<sup>り</sup>々小古城も<sup>り</sup>けし<sup>り</sup>五<sup>つ</sup>城<sup>り</sup>何<sup>れ</sup>卒<sup>り</sup>去<sup>り</sup>守  
五<sup>つ</sup>一<sup>つ</sup>推<sup>り</sup>を<sup>り</sup>も<sup>り</sup>不<sup>り</sup>是<sup>り</sup>後<sup>り</sup>也<sup>り</sup>百人<sup>り</sup>小<sup>り</sup>る<sup>る</sup>如<sup>り</sup>終<sup>り</sup>中<sup>り</sup>と<sup>り</sup>ま<sup>り</sup>之<sup>り</sup>後<sup>り</sup>は<sup>り</sup>不<sup>り</sup>は<sup>り</sup>石<sup>り</sup>と  
榎<sup>り</sup>も<sup>り</sup>大<sup>り</sup>計<sup>り</sup>も<sup>り</sup>と<sup>り</sup>向<sup>り</sup>す<sup>り</sup>中<sup>り</sup>も<sup>り</sup>在<sup>り</sup>る<sup>る</sup>は<sup>り</sup>時<sup>り</sup>家<sup>り</sup>軍<sup>り</sup>時<sup>り</sup>の<sup>り</sup>は<sup>り</sup>す<sup>り</sup>一<sup>つ</sup>名<sup>り</sup>字<sup>り</sup>  
是<sup>り</sup>後<sup>り</sup>(ま<sup>り</sup>又<sup>り</sup>も<sup>り</sup>を<sup>り</sup>依<sup>り</sup>教<sup>り</sup>。公を討<sup>り</sup>る<sup>る</sup>一<sup>つ</sup>と<sup>り</sup>下<sup>り</sup>名<sup>り</sup>を<sup>り</sup>在<sup>り</sup>れ<sup>る</sup>大<sup>り</sup>津<sup>り</sup>半  
大<sup>り</sup>乙<sup>つ</sup>辰<sup>り</sup>八<sup>つ</sup>三<sup>つ</sup>末<sup>り</sup>曾<sup>り</sup>目<sup>り</sup>源<sup>り</sup>也<sup>り</sup>信<sup>り</sup>吉<sup>り</sup>と<sup>り</sup>在<sup>り</sup>る<sup>る</sup>小<sup>り</sup>野<sup>り</sup>羽<sup>り</sup>小<sup>り</sup>野<sup>り</sup>地<sup>り</sup>別<sup>り</sup>城<sup>り</sup>  
五<sup>つ</sup>立<sup>り</sup>門<sup>り</sup>徒<sup>り</sup>の<sup>り</sup>者<sup>り</sup>先<sup>り</sup>七<sup>つ</sup>拾<sup>り</sup>余<sup>り</sup>人<sup>り</sup>指<sup>り</sup>高<sup>り</sup>は<sup>り</sup>時<sup>り</sup>是<sup>り</sup>後<sup>り</sup>も<sup>り</sup>人<sup>り</sup>少<sup>り</sup>一<sup>つ</sup>情<sup>り</sup>也<sup>り</sup>ぬ<sup>り</sup>  
榎<sup>り</sup>也<sup>り</sup>小<sup>り</sup>と<sup>り</sup>怒<sup>り</sup>と<sup>り</sup>在<sup>り</sup>る<sup>る</sup>由<sup>り</sup>出<sup>り</sup>馬<sup>り</sup>者<sup>り</sup>今<sup>り</sup>遊<sup>り</sup>教<sup>り</sup>さ<sup>り</sup>ん<sup>と</sup>怒<sup>り</sup>り<sup>ぬ</sup>と<sup>り</sup>在<sup>り</sup>る<sup>る</sup>海<sup>り</sup>井



以親由後由也小以是只今一揆八方より透るると何ふ最中中  
時方三吾人小是りの中人故上人の心疑令うしるしと用心  
仕れにそくか中か方ま一邪心小我ひまけいそと引おとん  
哲教子由説者一とく一月中と白眼む 移し出れと  
とむ者年 乙部  
ハ信父ハ乙部ハたのどく極善の勇士安祥徳多の我小討死  
とりそ子ハ信或夜の者小父まてぬる二三反ハ及て忠の教を  
ち一云已れハ父祖のた教とも毎一と君小向し引中是別地獄  
の業一親小少く提婆宗者小前ぬ相社神儒佛の三層小只親  
小哲由一うとハと一再ハ今主人小教者老の極生性生叶小一子小  
犯を早く教法を捨て志を改むと云れ乙部是心小因口生と又て  
善まをのびると思て記憶とらし一忽教一寺近北源海城小

筑の松平重臣の方一密小使とハ中甚ハ其不意小三代お君の二君  
小向て引中事余り忠多一明夜火急不揮奇法一内小より攻打  
へ一ける偽り花柳に亥刻一子右帝を記人一とハお骨一と  
中さう二層女恨いお家の別派ゆ出ハ翌夜お骨のつとち人見  
るるととしく人質と出れ二層女を替四十余人圍を仕て責掛  
る大付其同物一と一揆と下知して城のと揮官記面もあふん  
おて出五人其多虫や床を逐まねと責殺子二層女伊忠おと家  
教の奴多けい二層女引天哥思ひおれと云ま一汗溢の徳と掛  
て電光の音もろや突立れハ信右去氏更ハ一揆原一と一と交  
へを城の引ハ不保ハ天と焦一煽くう煙の中分圍一考  
揚て乙部ハ信切て掛れ二層女殺らるや多と殺少と一大陸



半九郎ハ幸として計略(述)其目次は...  
限り処言及ぶ...  
此の中(述)入る者...  
せしる真如の程も...  
宗門の勤の政...  
中無佛ハ...  
事多ハ計略(述)...  
さぬる...  
此ハ上和田小指...  
城方まで  
難攻不攻

是後を打破れと先陣...  
是れ其の勇士を撰り...  
上和田(述)へ...  
すり敵の方...  
圍まり...  
船版を...  
馬亦三騎...  
之を是後...  
小人等...  
おぼふ相計...  
通又...  
一文字...  
一掃...  
一掃...



























